

元秘書官 圧力を否定

厚労省統計「不適切な意図ない」

中江元首相秘書官は15日の衆院予算委員会で、毎月勤労統計を巡る調査対象事業所の入れ替え方法の変更について、厚生労働省に不当な圧力をかけていないと主張した。「全て政策的な観点からだ。政府に都合のいいデータが出るよう不適切な方法を取らせる意図に基づくものではない」と述べた。野党は、官邸がアベノミクスの効果を演出するため、調査手法の見直しを求めたのではないかと追及した。

中江氏は2015年3月、関する有識者検討会を発足させた。立憲民主党は「問題意識」を伝えた。同党の本多平直氏は「秘書官」を伝えた。同党の奥野総一郎、関健一郎は5月中旬、勤労統計に力だ。これが検討会につ

は元首相秘書官として参考人招致された。

中江氏は厚労省に伝えた「問題意識」について「経済の実態をタイムリーに適切に表すため、改善の可能性を考へるべきではないかと伝えた。当然の反応をしたつもりだ」と語った。首相への報告は、9月の国会答弁勉強会の時だったとした。

厚労省の藤沢勝博政策統括官は有識者検討会設置について「首相秘書官への説明前から改善策を検討する必要が有ると考へていた」として中江氏の影響は否定した。

中江氏は厚労省の説明について「サンプルを全部入

れ替えるため、対前年比がプラスからマイナスに変わる月が多く出る」との内容だったとした。

吉川貴盛農相は、愛知県などで感染が拡大している豚コレラに関し「県と連携を取りながら、ありとあらゆる手を尽くし、国が主導して取り組む」と述べた。必要に応じ、同県内の全ての養豚場に飼育環境を調べるチームを派遣するとした。

本多氏のほか、国民民主党の奥野総一郎、関健一郎両氏への答弁。